

# Market Flash

発表日: 2020年3月30日(月)

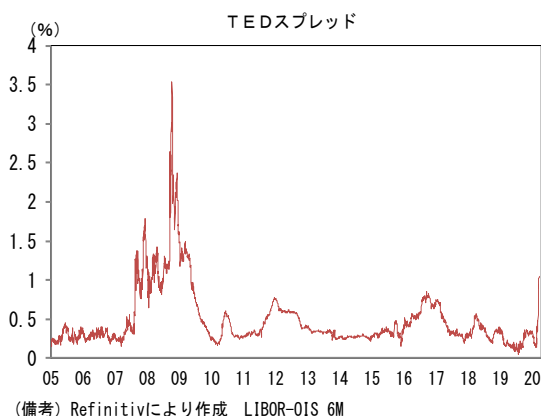
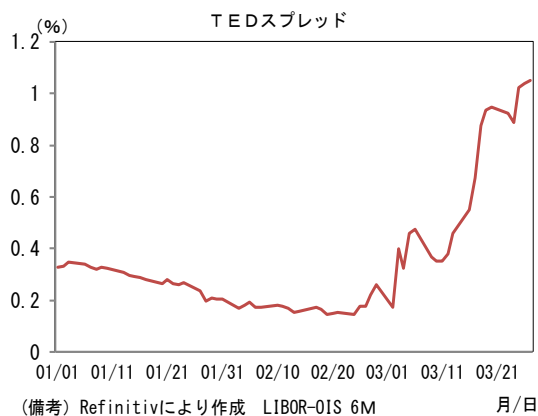
- ・グローバル 金融面の安定が救い
- ・米国 大規模財政＋無限資産購入
- ・中国 3月オフィシャルデータ第一弾

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査  
主任エコノミスト 藤代 宏一 (TEL: 03-5221-4523)

- ・日経平均の20000円定着には6ヶ月程度の時間を要するだろう。
- ・USD/JPYは、先行き12ヶ月105程度で推移しよう。
- ・日銀は現在のYCCを長期にわたって維持するだろう。
- ・FEDはゼロ金利政策下で資産購入を継続するだろう。

## < #短期金融市場 #流動性供給が奏功 #中国PMI >

- ・27日の米国株は反落。大規模経済対策の効果と新型コロナウイルスの感染拡大に対する懸念が入り混じるなか、週末にポジションを落としたいとの思惑から売り優勢。金曜日の株価下落は新型コロナウイルス問題発生以降の典型的なパターンになりつつある（過去5週のうち4週で下落）。米金利はブル・フラット。10年は0.676%（▲17.0bp）、30年は1.243%（▲19.5bp）へと低下。3月中旬に観測された株安、債券安の展開は回避されている。もっとも、短期金融市場ではドルLIBOR（OISスプレッド）が上昇。信用不安はやや増幅している。商品はWTI原油が21.51ドル（▲1.09ドル）へと下落したほか、金が1623.9ドル（▲26.2ドル）、銅が4782.5ドル（▲6.2ドル）へと何れも下落。株価下落を横目にドルLIBOR上昇と金価格下落が併存したことはネガティブ。
- ・ところで、今回の危機での「救い」は信用リスクが抑制されており、金融面のショックが实体经济を蝕むルートが遮断できていること。FEDの流動性供給と先進国中銀の米ドル資金供給が奏功し、短期金融市場が安定しているが大きい。実際、TEDスプレッド（USD LIBOR 6MとT-BILL 6Mの差）は3月入り後に急上昇も、リーマンショック時の水準には程遠い水準に踏みとどまっており、信用不安の抑制を映し出している。米ドルLIBOR 6ヶ月は1.07%となお高水準も連日スパイクする展開は回避できている。



- とはいえ、足もとの短期金融市場は金融危機後で最も強いストレスに晒されている。こうした状況で、リスク性資産が本格的に買い戻される可能性は低いだろう。金融市場へ流入する資金の序列を考えた場合、短期金融市場における円滑な取引が復活しない限り、株式やクレジット（HY債）へ持続的な資金流入が観測される可能性は低い。こうした観点から、当面は短期金融市場、安全資産としての「金」の動向を注視していきたい。
- なお、今週は3月の中国製造業PMIが公表される。国家統計局版は31日、IHSMARKIT版は1日である。生産活動は、サプライチェーン寸断によって稼働率が大幅に低下した状態にあるものの、武漢を含めて中国経済全体でみれば経済活動が持ち直しつつあるとみられ、それがオフィシャルな経済統計として初めて公表される（リアルタイムデータによれば電力消費量の代理指標である石炭消費量が9割程度まで持ち直しているという）。コンセンサスは国家統計局版、IHSMARKIT版がともに45.0と2月から急回復を見込んでいる。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。